くどう市長と語ろう!

ふれあいトーク

(第22回)



日 時 平成30年5月31日(木) 14時00分~

場 所 増幌コミュニティセンター

≪開催・実施内容≫

- ◆ 参加者 14名 (男性10名 女性4名)
- ◆ はじめに、工藤市長から挨拶と市政の近況報告を行いました。
 - 1. 北の桜守資料展示施設のオープンについて

今年は市制施行70年の節目の年ですが、市になった時の状況というのは戦後、樺太からの引き上げてきた方達が、稚内に定住して人口が増加したことにより、昭和24年に市となりました。映画「北の桜守」は、その樺太からの引き上げ者が主人公である作品ですが、実際に映画の撮影が行われたロケ地を整備し、4月22日に「北の桜守資料展示施設」がオープンしました。またオープン当日には、この映画の主演を務めた吉永小百合さんにお越し頂き桜の植樹をしたところです。

2. 樺太記念館のオープンについて

樺太からの引き上げ者の全国組織である「全国樺太連盟」が、会員の高齢化で団体の維持が難しくなったということがあり、所蔵品を是非、樺太と縁がある稚内市と北海道にというお話を受け、この度、5月25日に樺太記念館をオープンしました。また、同時に昭和の大横綱大鵬は樺太からの引き上げ者であり、既にお亡くなりになりましたが、今でも親交のあるご家族から稚内にも何か残したいというお話を受け、大鵬の化粧まわしや手形なども共に展示しています。

3. 日本最北端平和マラソンについて

9月2日に稚内でフルマラソン大会を予定しており、何百人ものエントリーがありました。日本最北端というロケーションのもとで、地元ならではの風も感じてもらいながら、たくさんの人に集まってもらい賑やかな大会にしたいと考えています。

4. 再生可能エネルギーについて

今月、地元のグリーンファクトリーさんとユーラスエナジーが設立した天北エナジーという会社が風力発電の風車を10基建設して稼働しています。陸上で稼働している風車としては、全国で一番大きい風車ですので、全国有数のものがこの地にあるという意味では、今後、見にくる方も増え、全国的にも有名になってほしいと思っています。

5. 空港の民営化について

以前から言われていることですが、稚内は東京や札幌などの都市から 距離的に遠く、この街の発展を阻害する要因の1つであることから、こ の問題を解決するために交通網の整備は何十年も要望をしてきました。

稚内空港は国が管理している空港ですが、空港は単に飛行機が発着するだけでは、儲かりません。ほとんどの空港は赤字であることから、道内にある7つの空港を民間会社、あるいはグループに運営してもらい、各空港が儲かるような空港経営を目的に、現在委託業者を選定する作業が進んでいる段階にあります。

6. クルーズ船の入港について

北海道では港湾管理者は、すべて市町村ですが、郊外の港は人口が少ない分、物流も少ないため、なかなか大きくすることができませんでしたが、一昨年から末広埠頭の改修に取り掛かり、10万トンクラスのクルーズ船が停泊できるようになりました。今後、様々なクルーズを呼び込んで盛り上げていきたいと思っています。

7. 高規格道路について

高速道路については、毎年、国にお願いをしていますが、これまで稚内から名寄・旭川までの未整備区間が順次、整備されています。今は中川町と音威子府間の工事が進んでいますが、名寄から士別も平行して工事が進んでいます。これらが整備されることになると、救急車の場合は名寄まで1時間30分、旭川まで3時間以内で到着が可能となり、命を守るといった意味でも、インフラの整備は非常に大きい話であると思っています。

8. JR北海道について

一昨年、JR北海道が単独では維持できないと発表した路線のなかに、 宗谷本線の名寄稚内間が含まれていましたが、以来、ずっと残す方向で 取り組んできました。

JR北海道には経営努力を求めたうえで、協力するというお話はしてきました。スケジュール的には、来年の予算にむけて国へ概算の予算要求をする時期ですから、国や北海道、そして沿線や周辺の自治体にどのような協力ができるのか、求められるのかをまとめていかなければならない時期です。

9. 稚内市の財政について

稚内市の財政のお話をしますと、例年、決算では250億円ほどですが、市税収入は40億円、そのほか国からの交付税や様々な補助金で賄っています。

貯金という点では、昔は百数十億円ありましたが、今は30億円ほどです。毎年、色々な財政運営をする中で、災害などの急な出来事に対してすぐに対応できるようにと準備金を残しております。もちろん、何か起きたときの準備金だけではなく、日頃から目的をもって貯めて置き、使うときがきたら使うという意味での基金です。いわゆる貯金という意味ではそのぐらいの財産は守っています。

- ◆ふれあいトークで話し合われた内容は、以下のとおりです。
 - 1.『稚内赤レンガ通信所の今後』について
 - 2. 『エゾシカの被害』について
 - 3. 『増幌・恵北地区の移住定住対策』について
 - 4. 『大規模草地の草地改良』について
 - 5. 『再生可能エネルギーへの補助等』について
 - 6. 『増幌小中学校の駐車場整備』について
 - 7. 『増幌小中学校の水道管』について

1.『稚内赤レンガ通信所の今後』について

●参加者からの意見、質問

≪質問者:恵北町内会関係者≫

インターネット等で、全国的に知られるようになり、歴史的建造物として、あるいは廃墟として見学する方も多い状況ですが、見学者からは「改修をしないのか?」という意見が多く寄せられております。

地域の貴重な財産ですので、今後の維持管理の方針について、お聞きしたい。

●市長の発言

市として、残さなければならないものは、当然、残していかなければならいが、ネックとなっているのは、補修費が膨大だということに加え、直した施設をその後どのように活用するのか、どんな効果が得られるのかという点です。観光との連動、地域と一体となったまちづくりの観点などが考えられるが、多くの補修費が見込まれるだけに、まずはそのあたりの方向性を整理する必要があると思っています。

2. 『エゾシカの被害』について

●参加者からの意見、質問

≪質問者:恵北町内会関係者≫

高齢者が、趣味で家庭菜園や花畑を作り楽しんでいるが、鹿の食害にあっています。鹿の駆除などの対策の状況について、お聞きしたいです。

●市長の発言

全道的には鹿は減っていると言われていますが、それは、主に北海道東部のことで、稚内を含む北海道西部では、鹿は増えているという話があります。

稚内では、年間で800頭くらいの鹿が捕獲されており、そのほとんどは 郡部で捕獲されたものです。市街地では、山と住宅地が近接していて、日 常的に鹿が現れますが銃器を使うわけにはいきません。昨年から吹き矢に よる捕獲も始まっていますが、郡部での銃器でハンターによる捕獲に比べ ると圧倒的に少ない状況です。

猟友会には約70名が登録していますが、トド対策をしている方もいるので、鹿を捕獲しているのは60名くらいで、その方達は一生懸命頑張ってくれている状況にあります。

鹿の被害は、どこの地域でも、町内会でも言われていることなので、国 や北海道にも働きかけながら、取り組みを続けていきたいと考えていま す。

3.『増幌地区の人口増加対策』について

●参加者からの意見、質問

≪質問者:増幌町内会関係者≫

地域に人を増やしたいという考えで、教員住宅を借りたり、空き家を活用したり様々なことを取り組んでいますが、例えば移住者に住んでもらうことや山村留学、市営住宅にするなど若干でも行政の支援をいただければ助かります。

●市長の発言

移住定住という点では、市内の他の地域では、空き家・教員住宅を有効に活用して、移住体験を展開していますが、この地域にそういった住宅があるのであれば、地域の方ともよく話をしたうえで、また、市全体的としての配置なども考えながら検討していかなければなりません。

民間の空き家を市営住宅にという点では、一戸建ての貸し出しは、市営 住宅というよりも、別の枠組みでのことになります。

この地域は、旧駅前を造成して定住人口の増加に取り組んでくれています。市としても、共に考えていきたいと思っています。

■ 検討状況など 【担当・・・まちづくり政策部 地方創生課】 「ちょっと暮らし移住体験推進事業」については、平成27年度から 住宅1棟で事業を開始し、現在は、西浜地区に1棟、下勇知地区に2 棟、更喜苫内地区に1棟、まちなかに1棟の計5棟のほか、民間の協 力のもと、ウィークリーマンション3室で実施しています。

増幌地区における移住体験住宅の整備については、現在、増幌地区の教員住宅6棟全て入居者がおり、市として移住体験住宅として活用できる物件がない状況と考えておりました。しかし恵北・増幌地区に移住体験住宅として提供可能な物件があるとのことでありますので、今後地域の方と相談させていただきます。

移住体験住宅が増えることは、移住希望者の選択肢が増え、体験者が集中する夏季に利用者を分散させることが可能となります。また、本市及び恵北・増幌地区においても活性化に繋がるものと考えています。

4. 『大規模草地の草地改良』について

●参加者からの意見、質問

≪質問者:増幌町内会関係者≫

大規模草地は、もともと泥炭の土地で何年かに1回は草地改良しなければなりませんが、もう数十年もしていません。牛の生育にも関わってくることなので、何とか早期にできないでしょうか。

●市長の発言

施設については、老朽化しているので手をつけたいとは思っています。 草地改良については、詳しい状況を調べさせてください。

■ 検討状況など 【担当・・・建設産業部 農政課】

大規模草地の草地改良について、平成 5年から平成 9年にかけて草地整備を行ってから 21年が経過し、本来であれば平成20年頃から平成25年頃にかけて整備を行う予定でありましたが、道営事業の計画では最短で平成34年度となっております。これにより、一部使用できない草地や、収穫できる飼料の品質低下がある状況であります。

当該地の広大な草地を、稚内市単独で更新を行うのは極めて厳しく、現実的に公共牧場の草地更新を行う為には、道営事業の活用が必要であります。

平成34年度での道営事業では、442haの草地整備改良や、7.5ha の草地造成等を計画しており、施設の整備についても、これまで部分的には行ってきましたが、老朽化や施設拡大等、機械も含めた一体的な更新を道営事業で予定しております。

道営事業を活用した、一体的な施設更新を目指しておりますので、ご理解とご協力をお願い致します。

5.『再生可能エネルギーへの補助等』について

●参加者からの意見、質問

≪質問者:恵北町内会関係者≫

稚内市は再生可能エネルギーに積極に取り組んでいますが、この地域では頻繁に停電があり、酪農家では搾乳や牛乳の保管に影響があります。現在は、ディーゼル発電機などで対応しているが、個人がソーラーパネルや蓄電池を設置する際に何か補助がないでしょうか。

●市長の発言

現在、個人の方々へのそういった補助制度はないのですが、エネルギー の話というよりは、酪農という産業振興という点で、調べてみます。

■ 検討状況など 【担当・・・建設産業部 農政課】

停電時における電力供給について、自家発電機を各農家が全て用意する事が理想ですが、高額である等の理由で、それぞれが保有する事が出来ていないのが現状です。

現在、発電機及び蓄電池に特化した補助制度はありませんので、中山 間地域等直接支払交付金事業での費用一部補填等、地域で考慮する事が 必要と思います。

6.『増幌小中学校の駐車場整備』について

●参加者からの意見、質問

≪質問者:恵北町内会関係者及び学校関係者≫

増幌中学校には来校者の駐車場がないため、一応空きスペースがある玄 関前に停めています。整備するお金はどこからも出てこないので、穴ぼこ のところに車を停めています。

また、他の地域からお越しになる教職員からも駐車スペースがないと言われることもあり大変厳しい状況です。

しかし、稚内市の教育委員会から正式に駐車場を整備する予算はないので対応できないと言われました。

●市長の発言

職員という意味では、今稚内市役所の職員に対して無償の駐車場というのは用意しておらず、個人が民間の有料駐車場を借りている状況です。建物の制度上お客さんがお越しになることは当たり前ですので、教育委員会に確認させてください。

■ 検討状況など 【担当・・・教育委員会 学校教育課】

駐車スペースは、玄関前と、奥の体育館脇にあり10台強ほど駐車可能です。穴や段差がひどい場合は、随時補修しております。

本来は、教職員用の駐車スペースではなく、来校者用の駐車スペースとしております。

隣接する教員住宅に住んでいない、市内から通勤している教職員が、 その駐車スペースにやむを得ず停めているのが現状です。駐車スペース をこれ以上広くするには、山を切り開くしかなく、それはできないた め、行事などで多数駐車する際にはグランドの一部に止めて頂いている ところですので、ご理解ください。

5. 『増幌小中学校の水道管』について

●参加者からの意見、質問

≪質問者:学校関係者≫

校舎が36年目を迎えるにあたり、水道管が古く赤さびが出てきている 状況にあります。毎朝用務員が1時間程水を流してから、子供達が飲める 水になります。現在の校舎で、今後も長い間教育していくには厳しいと感 じているので、一度確認して頂けたらなと思います。

●市長の発言

教育委員会に確認させてください。

■ 検討状況など 【担当・・・教育委員会 学校教育課】

赤さびは、建物が古くなると、どうしても出てきてしまうため毎朝、 水を流してもらい使用しています。水質検査を実施し、問題はないとこ ろではありますが、数年前にも給食室の配管を更新したところです。今 後も、順次配管の更新をしてまいります。

また、暖かい水がでるのは、ポンプの不調が原因でありますが、こちらも更新を検討中です。

≪終わりに工藤市長から≫

長時間にわたって、様々なお話をいただきました。

地域の皆さんが、少しでも快適に暮らしていけるように、しっかり努力していきたいと考えています。

本日は本当にありがとうございました。



ご参加いただいた皆さんから、さまざまなご意見をいただき、活発な議論 が交わされました。

お忙しい中、ご参加いただきましたことに、心から感謝申し上げます。 ありがとうございました。